

小林  
こばやしびと  
Vol.21

老若男女、初心者から音大卒  
までバラエティーに富んだ  
団員が紡ぐハーモニー



小林市民吹奏楽団

KobayashishiminSuisougakudan

平成10年、市の生涯学習の一環として結成。定期演奏会の開催やイベントなどへの出演多数。6月16日、11回目の定期演奏会を開催する。現在の団員数45人。

「音楽に関心のある人なら誰でもウエルカム」

平成10年に生涯学習の一環として結成された市民吹奏楽団。団員の多くが、楽器の初心者や、長らく演奏する機会がなかった人だ。それでも、練習を積み重ね、定期演奏会を開催。また、イベントにも出演し、場を盛り上げ、地域の人々に生の演奏を提供してきた。

受け入団した指揮者の末吉英夫さんは「始めは、初心者やブランクがある人が多く、方向性が見い出せなかった」と当時を語る。2年前に加入した東京音楽大卒で事務局長を務める森山拓郎さんは「入った当初は仕事などで練習に來れない人がおり、テンションの違いに戸惑った」と話した。それでも、楽団は誰にでも門戸を開き、受け入れてきた。それは「音楽をやりたい、楽器を演奏したい」という人々の受け皿であり続けるため。園村団長は「吹奏楽を学んだ子どもが、將來小林に帰ってきて、音楽

▶定期演奏会へ向けて練習を重ねる団員たち

◆通常の練習は週2回（火曜・金曜）開催  
見学、練習参加、大歓迎  
●問：文化会館  
TEL 23-7400



ができる環境を作れば」と思いを語る。実際、見学に来た人を温かく迎え入れ、楽器を持ってきていれば、練習に参加してもらおう。定期演奏会は、団員が練習を積んだ成果の発表と、市民へ生の音楽を提供する目的で開催される。しかし、一昨年は、口蹄疫で中止。昨年東日本大震災の後で開催が危ぶまれた。それでも、復興への願いを込めての開催。団員は、皆で演奏できる喜びをかみしめた。

現在、楽団は11度目の定期演奏会を控え、練習も熱を帯びてきた。演奏会は、2部構成で、第1部は団員が練習に練習を重ねたクラシック。末吉さんは「去年から団員が考えて演奏できるようになってきた。今年は今までの最も難しい曲に挑戦する」と今回の見所を話す。また、第2部は、観客に楽しませる趣向を凝らした演出が見物だ。森山さんは「それぞれ個人やパートでしっかり練習しており、雰囲気が違う」と本番への手応えを話す。

結成から14年。重ねた年月とともに深まったチームワーク。6月16日、文化会館大ホールには、団員それぞれの思いが詰まった絶妙なハーモニーが響き渡る。

interview



初心者で入団し  
今ではソロも担当  
蛭川寅生さん(73)

舞台の上は充実感でいっぱい

62歳で入団しました。きっかけは、子どもが使っていたサックスを倉庫で見つけたこと。初めは、演奏会でも吹けるとこだけでいいと言われていました。しかし、練習を重ね、仲間の優しい指導で上達。今では、ストレス解消に楽譜を買って吹いています。団員が若いので気持ちが若返り、生きがいになっています。舞台は充実感でいっぱいです。ぜひ、同じくらいの年齢の人も参加してほしいです。

Infomation



小林市民吹奏楽団  
第11回定期演奏会

【開催日】6月16日（土曜）  
【時間】開場 18:00 開演 18:30  
【入場料】※全席自由席  
・ペア 1,500円（前売券のみ）  
・大人 800円（当日 1,000円）  
・高校生以下 400円（当日券 500円）  
・小学生以下無料（要整理券）  
【問】小林市文化会館 TEL 23-7400